

## 編集後記

機関誌第10号を発行する運びとなった。編集委員、レフェリー他関係者の皆様に多大なるご協力を頂き、心より御礼申し上げたい。

今回、採用となった論文は「手術室の使用効率に関する実証研究」（安田 信彦氏）である。病院の経営効率の観点から、手術室の運営効率が実証的に明らかにされている。

医療経済研究機構では、研究者層の裾野を広げ、医療経済研究の発展を目指し、もってわが国における医療政策の発展に寄与することを目的として、主として若手研究者を中心に研究助成を行っている。平成11年度からは応募者への助成条件の一つとして、採択研究の成果を本誌へ投稿することを義務付けており、当論文は平成11年度に採択された研究成果論文である。当然のことながら論文掲載の採否は、採択研究成果論文についても他論文と同様、編集委員およびレフェリーによる厳正な審査に基づいて決定される。本誌のこだわりである“質の確保”に対する厳しい姿勢は、創刊以来変わることなく貫かれていると自負しているところである。そうした厳しい審査を経て、採択研究の成果論文が第9号に引き続き本号にも掲載されたことは、事務局として非常に感慨深い。

医療経済研究機構が行った代表的プロジェクトをまとめて報告する研究報告では、「欧州におけるDRGの展開過程 - フランスを中心に -」をとり上げた。DRGには、医療サービスの提供体制に変革をもたらすツールとして、高い関心、期待が寄せられおり、その導入をめぐる活発な議論がなされていることは周知の通りである。研究報告執筆は、この研究会の座長を勤められた産業医科大学公衆衛生学教室の松田 晋哉教授にお願いした。松田教授のご協力に、感謝している次第である。

尚、本年度より医療経済研究機構前専務理事 上條 俊昭氏の後を受け、私が編集事務局代表として本機関誌の編集に携わることとなった。本機関誌が、今後とも医療政策議論の参考文献としてお役に立ち、ヘルスケアサービスの更なる向上と医療政策の発展に寄与できるよう微力ながら尽力したい。これまでと変わらないご支援、ご指導をお願い申し上げたい。

（編集事務局代表 岡部 陽二）